

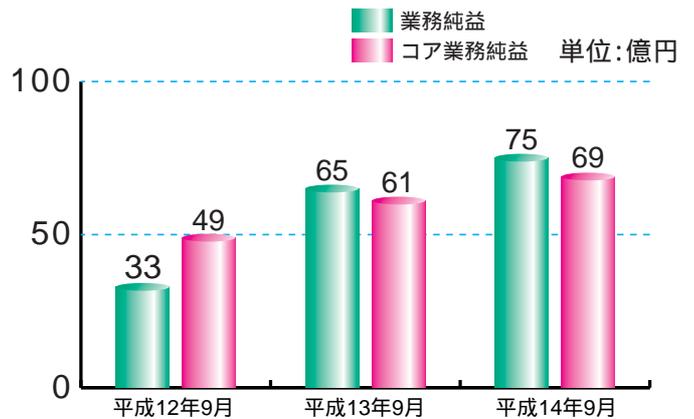
Q4 銀行の収益力（業務純益・コア業務純益）について教えてください

A 業務純益、コア業務純益とも過去最高を計上

業務純益は、銀行が預金や貸出金、為替業務などの本業部門でどれだけの利益をあげたかを表す指標で、一般企業でいう営業利益に相当します。平成14年9月期の業務純益は、低金利局面の継続による預金利息の減少や経費の圧縮などにより、前年同期比10億円増加し、過去最高の75億円となりました。

また、業務純益は、臨時的収入に近い国債関係損益や一般貸倒引当金繰入などの信用コストを含むため、利益額が大きく変動することがあります。最近では、こうした一時的変動の影響を除いたコア業務純益^(注)が実質的な収益力を表す指標として注目されています。平成14年9月期のコア業務純益は、前年同期比7億円増加し、過去最高となる69億円を計上しました。

業務純益・コア業務純益の推移



(注)コア業務純益は、業務純益から一般貸倒引当金繰入、信託勘定償却、国債等債券損益(5勘定戻)を除いて算出します。

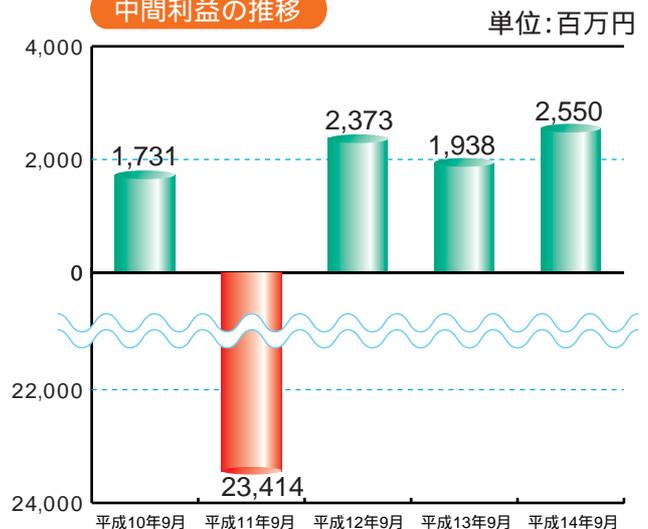
Q5 利益について教えてください

A 中間利益は過去最高の25億円

低金利を背景に資金調達費用が減少したことや、貸出金償却等が大きく減少したことなどから、経常利益は前年同期比35億68百万円増加の41億47百万円、中間利益は6億12百万円増加の25億50百万円となり、経常利益は過去2番目、中間利益は過去最高の利益水準となりました。

当中間期の普通株式の配当は、平成13年度末の20円に対して5円増額し、公的資金導入以前の水準である25円としました。

中間利益の推移



Q6 今年度の業績の見込みについて教えてください

A 平成14年度は当期利益67億円の確保を見込む

平成14年度の業績については、引き続き経営の効率化とお客さまのニーズへの的確な対応に努め、67億円の当期利益を確保する見込みです。また、普通株式の期末配当は25円(年度50円)を予定しています。

当行は、今後とも金融環境に配慮しつつ内部留保を高め、公的資金の早期返済に目処付けするとともに、安定的な配当を目指してまいります。

平成14年度業績の見込み

	14年度見込	13年度実績	増減額
経常収益	409億円	428億円	19億円
経常利益	92億円	9億円	83億円
当期利益	67億円	48億円	19億円